



齊藤専務(左)と園児たちがスコップを使って植樹

森と緑の会

根崎保育園で植樹会

北栄測量拠出の寄付金で

緑の募金運動や森林整備「緑の会(堀達也理事長)はなどを推進する北海道森と」24日、根崎保育園(高松町

426)で、「シンボルツリー植樹会」を開いた。

北栄測量設計(杉村久哉社長、深堀町)が緑の募金に拠出した寄付金を基に、地域の環境保全や木を使つた子どもへの教育に役立てようと企画。建物を象徴するシンボルツリーの植栽を道南で行うのは初めて。

同社の齊藤重則会長と齊藤サダ専務、同園の柏倉典子園長、年長クラスの園児17人が参加し、高さ2メートルのリンゴとブルーノの木それぞれ1本に、スコップを使って土をかぶせた。その間、年少・年中クラスの園児は「おおきなーれ」と声を掛けていた。

続いて齊藤専務が子どもたちへ、紙芝居と道産のアカエゾマツを使用した積み木をプレゼント。園児は「木を大切にかわいがり、シンボルとして立派に育ててい

きます」と宣言した。

同専務(68)は「子どもたちが活動に参加してくれてうれしい。今後も微力ではあるが、地域のために活動していきたい」と話していた。

(稲船優香)